

令和元年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

(個人留学による帰国報告)

●氏名

S.Jさん

●留学先

国/都市：アメリカ/ヴァルディーズ

外国の高校：ヴァルディーズ高校

●留学期間

2019年8月7日～2020年4月2日

●留学先での活動、留学で学んだこと

アメリカで生活することはいつも私の夢であり、このプログラムで、アメリカに滞在するだけでなく、実際に地元の高校に通えたことを本当に嬉しく思いました。自分は、他国に住む同世代の人たちがどのように生活しているのか知るためと、英語を上達するため、また、英語で会話して友達を作って一緒に過ごすことを目標にしていました。しかし現地に行ってみると、やってみたいことが本当にたくさんあり目標が増えました。私は帰国する前までに、そのほとんどを達成することが出来ました。このプログラムは私にとってかけがえのない思い出になりました。

アメリカでは、クロスカントリーチームとバスケットボールチームに参加しました。クロスカントリーチームに入って初めての練習では、自分はどのように話しかけていいかわからず、特に自分から話すこともなく終わってしまいました。次第に彼らの会話に入れるようになって、また毎週のようにヴァンや大型バスでレース会場の学校まで3時間以上かけて移動する間、友達とゲームをしたり飲食を共にしてとても仲良くなりました。チームのメンバーとは、練習後には公園でサッカーをしたり、レースに遠征行った時には夜に町で映画を見たり、モールを歩き回ったりしました。リージョンのレースでは、私は4位を取り、ステートチャンピオンシップへの鍵をつかむことが出来ました。また同時に、ほかのチームメートもいい成績を出し、チーム全員がステートの出場資格を得る、という学校で初めてのことをチームで成し遂げることが出来ました。

バスケットボールでは、チームが勝つためにみんなで真剣に練習とトレーニングをしました。練習中によく会話や声かけをするため、メンバーとすぐに仲良くなりました。チアリーダーと男女のバスケットボールチームと一緒に大型バスを使って毎週、遠征試合に行きました。夜にみんなでピザを頼んで教室で食べたり、試合後にチーム全員でバスケットをしたことが良い思い出になっています。

クラブや学校がない時、夏の間は公園のバスケットコートで学校の友達と遊び、また、友達の家で集まってパーティーをすることが多かったです。

冬になると、ホストファミリーや友達と毎日のようにクロスカントリースキーをしました。日照時間がとても少なかった時期には、映画を観たり、ゲームボードで遊びました。

毎日学校へ行くのがとても楽しかったです。学校まではスクールバスや自転車、スケートボードで登校したことも忘れられない経験です。私は映画やドラマで見て、通ってみたかったアメリカの高校生活を体験することが出来ました。英語での授業は、非常に難しく、ストレスを多く感じました。単語だけでなく、アメリカで使われるスラングを習得するのがとても大変でした。しかし、1学期の終わりには慣れて、毎日の学校生活を楽しむことができました。私はアメリカの歴史、数学発展、ロボティクス、文芸、英語、美術、海洋生物学のクラスを取りました。ホームルームがなく、クラスの中に学年関係なく生徒がいたことには驚きました。しかし、そのおかげで全学年の人達を短期間で知ることが出来ました。授業の中では、自ら発言する機会が多かったです。アメリカの歴史のクラスでは、先生から自分の国について話す時間をもらい、プレゼンをしました。

私が学校の授業の中で一番好きだったのは、アメリカの歴史でした。第二次世界大戦やペリーの黒船など、アメリカと日本の中で起こった出来事を、アメリカの視点から学びました。戦争について学んでいる間、私はアメリカの生徒と一緒に授業を受けていることを奇妙に感じました。同時に、私は平和であることの凄さを感じました。さらに、遠くから自分の国を見て、自分が日本を誇りに思っていることに気づきました。「日本」という言葉やそれに関連する話題を聞いた時に、私はそれを誇りに思いました。

さらに、私は前に知らなかった、気を付けなければならない多くのことを知りました。人と話すとき、秘密を持っていることを人に伝えないというマナーがありました。私は実際にそのマナーを知らずに私のホストブラザーに話をして、とても悪い雰囲気を作ってしまった。日本での雰囲気ですと、アメリカ人を不快に思わせることがあることを知りました。

アメリカで暮らしていくうちに、文化や生活習慣などについて多くのことを発見しました。また、このプログラムで私と一緒に過ごしてくれたすべての人たちと、自分の為に様々なサポートをしてくれた人々に心から感謝しています。この経験により、私は今、世界中の多様な人々と交流していくための出発点に立てたと信じています。

これからは、模擬国連や国際交流の催しなどに積極的に参加して、アメリカ留学で得た力を発揮していきたいと思います。